

第3回 江別市本庁舎建設基本構想検討委員会会議録(要点筆記)

日 時: 令和4年10月6日(木)9:30~11:20

場 所: 江別市民会館 21号室

出席委員: 末富弘会長、小室晴陽会長代理、藤本直樹委員、伊藤祥子委員、伊藤留美子委員、
北川裕治委員、工藤祐三委員、神保順子委員、日谷真維委員、星優子委員、
松村昭二委員、鴨田啓治委員、井上義和委員
計13名

欠席委員: 2名

事務局: 野口総務部調整監、阿部総務部参事(庁舎耐震化担当)、上ノ山主査(庁舎耐震化担当)、
大久保主査(庁舎耐震化担当)

その他: ㈱ドーコン中嶋主任技師、生沼主任技師、菊地技師

傍聴者: 3名

会議概要

1 開会

2 協議事項

(1)市庁舎建設の基本理念について

事務局から「江別市本庁舎建設基本構想 ~基本理念について~」について説明

○末富会長

どのように基本理念を決めていくか提案はあるか。

○事務局

3案の中から下地になる案を決めて、具体的な文言を決めていくのではどうかと考えている。

○末富会長

事務局から提案があった方法で決めていくことで良いか。

《良いという意見あり》

○事務局

《田中委員からの意見を紹介》

案1については、可変性と多様性に配慮するのであれば、自然より分散した都市構造に視点をあてた方が良いことから、「えべつの地域性を考慮(配慮)した次世代の拠点」と変更した方が良い。

案3については、将来に向けて防災等を考慮するため、未来に対して具体的な対象を記載した方が良いことから、「市民に寄り添い 安心して暮らせる未来を拓く」としてはいかがかと意見を頂いている。

○小室会長代理

3つの基本理念は、これまでの議論を踏まえて丁寧に提案されたと思う。理念というのは、計画案を具体的にしていく上で、常に考えの基となる拠り所とする発想の原点になるものだと思う。

案1は、江別の特徴や地域性を捉えており、今後の社会に向けて明るいイメージもあるため、案1をベースに考えると良いと思う。

ただ、自然というのもいいが、市民憲章を拝見すると、江別の市民の方々が培ってきた生活の営みや文化、郷土の歴史があるのでその要素が薄いと思う。例えば「風土」という文言が入るとそういったニュアンスが入ると思う。

○鴨田委員

案1、案2に「可変性」、「多様性」という言葉を使っているが、日本語として、「可変性と多様性を未来へ」というのは違和感がある。多様性をどのように未来へつなげていくかがわからない。「可変性と多様性を未来へ」に続く言葉があると良いと思う。また、案2には「次世代」とあるが、次世代とは何年後か不明であり、「次世代の拠点」には疑問を感じた。

案3の「未来を拓く」については、防災に限らず様々な面から未来につながる拠点ということであれば、安全という言葉はいらないと思う。3案の中では、案3が良いと思う。

○藤本委員

案1をベースに表現を検討すると良いと思う。「次世代」という言葉に引っかかりを感じる方もいるが、その前にぶらさがる言葉によって印象は変わると思う。例えば「えべつの歴史・風土をつなぐ次世代の拠点」というようにしたり、サブタイトルについても例えば「安全安心な未来へ」など、案3の要素を持たせたりすることで、違和感を取り除くことはできるのではないかと。

案1が良いと思ったのは、案2、案3は他の地域の市庁舎であっても通用してしまうのではないかと感じた。案1は、江別の新しい庁舎を考えていくという要素があり、拠り所となるキャッチフレーズとしては良いと思った。

○神保委員

3案の中では、案1、2は自分の年代の感覚からすると、すっと入ってこないと思う。すんなり入ったのは案3。ただよく考えると、市民に寄り添う市役所ということは、様々な活動をしている市民を支える市役所であると良いと思う。案3が良いと思うが、市民を支えるなどの要素が入ると良いと思う。

○松村委員

3案の中では一番わかりやすいのは案3だと思う。市民憲章や江別の歴史を考えると、案2の時代の変化に対応するというのは良いと思う。ただ最も市民が見てわかるのは案3だと思う。

○星委員

案1、案2の可変性、多様性、柔軟性をどうするのかは、理解しづらいと思う。案3が一番わかりや

すいと思う。ただ、案1のように「えべつ」が入るのは魅力・素敵だと思うので、うまく合わせると良いと思う。

○伊藤留美子委員

案1と案2を組み合わせ、「時代の変化に対応する次世代の拠点」が良いと思った。社会状況が変化しているため、それに対応できる市役所であってほしいと思う。ただ、色々な意見を聞くと、「江別の自然に映える市民が集う庁舎」とし、サブタイトルは「多様性と柔軟性を次世代へ」とすると良いと思った。

○工藤委員

3案を見ると迷ってしまう。「えべつ」は、漢字の「江別」で書きたいが、キャッチフレーズなら平仮名でも良いと思った。「映える」「拓く」は、小中学生が読めるのか心配だが、これくらいは許容されるのかもしれない。案1、案3が良いと思った。サブタイトルは、案3が全世代にわかりやすいと思った。皆さんの意見を聞くと、決定的なことが言えなくなった。

また、基本理念は、今決めなければならないのかと思った。総合計画で、まちづくりのスローガンが位置付けられると思うので、整合性を考慮した方が良いと思う。事務局や庁内での検討を踏まえて頂ければと思うが、市民に庁舎を説明するときに、期待感を持たせるために必要だと思うが、こうしたスローガンが絶対必要なかどうか。市民が納得すればそれでよいが、無理して決めたくはないと思う。

○北川委員

庁舎は基本的に執務室だと思う。公民館のような施設とは違うと思うので、案1・案2を組み合わせ「時代の変化に対応する次世代の拠点」が良いと思ったが、意見を聞いていくと、自然と文化という要素も入れた案1も良いと思う。

総合計画には将来都市像があり、調べていくと、今の計画の将来都市像は「みんなでつくる未来のまち 江別」、その前は「人が輝く共生のまち」、その前は「原始林と石狩川に抱かれたふれあいのまち 江別」これが一番気に入っている。江別の自然だけでなく、文化という言葉も入れると良いと思う。どちらかというとな案1に寄せていった方が良いのかなと思った。

○日谷委員

案1の「えべつ」の言葉はとても素敵と感じた反面、「次世代」というのは違和感がある。現世代はどうなるのかと思ったので、「次世代」を「市民が集う・寄り添う」という要素に変えると良いと思う。

ただ、パッと見ると、案3も確かに一番わかりやすいと思ったが、未来を拓く「庁舎」、「拠点」といった言葉があった方が良い。3案の良いところを組み合わせつつ、案1をベースに考えると良いと思う。

○井上委員

案1の「えべつ」という言葉が入ると一番いいと思う。私も「次世代」の言葉にひっかかっている。可変性、多様性は別にして、未来という言葉が入るのは良いと思う。江別そのものの地域性、風土という文言も捨てがたい。若い人たちに引き継いでいかなければならないというのも念頭に置かないと

ならないと思う。

○工藤委員

スローガンを載せるとしたら、毛筆で書いたスローガンもありうると思う。漢字でも江別らしく見えると思う。

○伊藤祥子委員

迷いが重なっている。最初に見たときは、案2か案3が良いと思ったが、皆さんの意見を聞いて、地域性というところを考えると、「えべつ」という言葉も入ると良いと思う。寄り添って、集まって、未来につながるという良いところを組み合わせると良いと思う。

また、基本理念はこれからの検討のためにも、あった方が良いと思う。

○末富会長

基本的には、3案から1つを選んで意見を付すということで良いか。提出する意見を決めていきたいと思う。良いと思う案に挙手をお願いする。

《挙手の結果 案1:7名 案2:0名 案3:6名》

○末富会長

あくまで下地として案1を基本とし、追記する意見があれば、お願いしたい。

○鴨田委員

「次世代の拠点」ではなく、「次世代へつなぐ拠点」とした方が良い。また、可変性と多様性を「推進」などの文言を付けた方が良いと思う。日本語としてわからないと思う。

○小室会長代理

あくまで様々な意見が出たので、ここで決まったこととしては、案1をベースにしながらも、頂いた意見を尊重して文言は変わっていくという理解をしていた。特に、案3も捨てがたく、わかりやすく重要な言葉も入っているため、案1の言葉の使い方を直しつつ、案3のニュアンスも盛り込むということで良いか。

○末富会長

その通り。案1を下地として、色んな意見を加えてまとめた上で、市民の皆さんにも見て頂いて決めていくことになる。色んな意見を頂いたが方向性を決めていかないとならないため、本委員会としては、案1を下地として、これまでの意見を加えていくということで良いか。

《良いという意見あり》

○末富会長

事務局から基本理念決定までの流れを説明していただきたい。

○事務局

今後、庁内の検討委員会で、さらに検討を加える予定。本委員会での意見を踏まえて決めていきたいと思う。

(2)事業手法について

(株)ドーコンより「参考:新庁舎建設における事業手法について」の説明

○鴨田委員

PFI方式に関して、民間事業者のノウハウを活用して施設整備費や維持管理コストが削減と記載しているが、具体的にどのような例があるか。

○(株)ドーコン

施設整備費に関しては工事会社の工法・材料等のノウハウを活用することで、コストの削減が可能。維持管理については、10年20年の長期にわたり、ノウハウが蓄積されていくことで維持管理コストを削減することが可能なので記載している。

○鴨田委員

民間ノウハウで維持管理コストが削減できるということがまだ納得できない。また施設整備費については、従来方式では、入札だとコストの削減は難しいのか。

○(株)ドーコン

入札によっても企業努力によって工事費の削減は可能ではある。ただ仕様発注と性能発注の違いもあり、工事費も高騰してきているので一概に言えない面はある。

○末富会長

PFI事業が完了したところもそこまで多くはないが、民間にノウハウを使って具体的にどんなことが良かったのかわからないと、適否がわからないと思う。また、PFI事業については、地元企業が参画しづらいと思うので、しっかり考えていく必要がある。

○伊藤留美子委員

地元企業というのは江別市内業者を指すのか、道内業者を指すのかどちらか。設計施工を一括する事業は市内で実績はあるのか。大手ゼネコンだと設計できることを理解しているが、市内ではどうだろうか。さらに、現在、新栄団地を建設しているが、これはどのような方式となっているか。

○事務局

地元の業者については、江別市に登録されている事業者ということで大手の業者でも登録があれ

ば対象となる。新築団地については従来方式となる。

○井上委員

従来方式というのは、民間のゼネコンに一括発注するという考えなのか。

○榊ドーコン

従来方式でもいくつかの方式に分けられ、設計と施工を分離する一般的な方式と、設計・施工を一括して行う DB 方式というものに分けられ、DB 方式だとゼネコンなどに一括発注することになる。

○井上委員

DB 方式になると地元企業の参画はないのか。

○榊ドーコン

ゼロではないが、DB 方式となると事業規模も大きくなることが考えられるため、参画するハードルはあがってくる。ただし、公募にあたり、地元事業者が参画することを条件とする方法も考えられる。

○井上委員

まちづくりという面もあるので、地元企業が参画できるようなスキームにしてほしい。

○北川委員

ここで方向性を決めるのは難しいと思うが、当然ながら地元企業の参画は必須条件である。

基本的には、全国では起債制度を活用して庁舎を建設しているため、江別市ではどの程度活用することができるのか、それによるコストも含めて、メリット・デメリットを整理して判断すべきと思う。

今はどの起債制度を活用できるか決まっていないため、ここで議論してもしょうがないと思う。

ただ、全国的にもそういう議論を踏まえた上で、PFI の事例が少ないという状況である。もし議論するのであれば、札幌市でも白石区と中央区で事業方式がなぜ違うのか、といった情報提供があると議論ができると思う。

○伊藤祥子委員

P39 では、民間主体は PFI 方式とリース方式があるが、今回の資料は PFI のみとなっている点について教えてほしい。

○榊ドーコン

リース方式については、全国的にも実績が少ない状況。リース方式だと財政負担が平準化されることから、活用している自治体があるようだが、今回は民間主体として PFI 方式をメインに説明させて頂いた。

○藤本委員

市庁舎の建設については、PFI 方式は向かないと考えている。例えば、ドーム球場や美術館、キャンプ場等を整備する場合だと、機能・デザインが多様であり、得意な民間事業者が企画・設計・運営まで行う場合だと PFI 方式は向くことがある。市庁舎の自由度を考えると、PFI のメリットを発揮しにくい。また、契約に係る労力なども膨大となり、地元企業も参入しにくいと考える。

ただ、従来方式の懸念点は、初期投資額が大きくなるのが、重大かつ唯一に近い懸念点であるため、財源確保のために、有利な起債制度の活用が決まっていなかった中では、いま決められる段階にはないと思うので、基本計画段階で判断すると良いと思う。

○小室会長代理

この短い話し合いの中で、事業方式の選定は避けておきたい。今回は行政主体、民間主体という話であったが、今後市民が考えるときには、よくわからないと思うので、市民がきちんとわかるように丁寧な説明・議論をしてほしい。

○井上委員

従来方式は税金で資金を調達するのはわかるが、民間の場合はどのように資金を調達するのか。

○榊ドーコン

基本的には、民間事業者(SPC)が銀行から借入れをして資金を調達し、事業者が返済していくことになる。

○末富会長

PFI の場合は、10 年 20 年の契約期間があり、その間は事業者が資金を調達すると思うが、最終的に市に引き渡すときに市が買い取る、つまり税金が使われるのではないか。

○榊ドーコン

建物の所有をどの段階で市に移転するかという点で、建設してから市に移転する場合と、事業期間が完了してから移転する場合がある。建物の所有を市に移転する際、市の財政負担は想定されない。

○末富会長

基本計画段階では、事業手法を市民の方に伺う際は、できるだけ具体的な話をする必要があると思うので、本委員会での意見を参考としていただきたい。

○藤本委員

今年度の基本構想の中で、事業手法はどこまでの書きぶりを想定しているか。

○事務局

基本構想段階では、一般的な記載とし、両論併記としている。事業手法の決定は基本計画段階で行う。

○鴨田委員

PFI の民間事業者の参入意向の調査は行っているのか。

○事務局

現時点では行っていない。

(3)本庁舎建設基本構想(案)のたたき台について
事務局から「江別市庁舎建設基本構想(案)」について説明

○末富会長

事務局から説明があった修正事項についていかがか。

《異論なしとの声があり》

○伊藤留美子委員

現敷地には、記念植樹、記念碑やタイムカプセルが埋まっているということだが、移転した際のカプセルの扱いについて教えていただきたい。

○事務局

タイムカプセルは市民会館の緑地部分に埋まっており、先の時点で開封することとなっている。庁舎が高校跡地に建設するとなっても、開封するタイミングまではそのままにすることになる。

○伊藤留美子委員

新庁舎を建設した後、敷地を整備する際に支障はきたさないのか。記念碑、記念植樹についてはどうなるか。

○事務局

支障をきたさないように検討する、あるいは支障があれば移すということになると思うが、いずれにしても今後検討していくことになる。

○伊藤留美子委員

現状で江別高校跡地に多くの車が駐車しているが、建設中はどうするのか。

○事務局

敷地における具体的な配置等についてはこれからの検討となる。

○鴨田委員

先日Jアラートが鳴ったが、新庁舎においては、職員や来庁者を安全な場所に避難するために地下を整備するなどの構想はあるか。

○事務局

現時点では地下を作る、作らないも含めて決まっていないため、そういったことも含めて今後検討することになる。

○伊藤留美子委員

P38 に職員一人当たりの面積がでていますが、職員は正職員の人数ではないか。正職員ではない会計年度任用職員の方も働いていると思うが、いかがか。

○事務局

P32に職員数を明記しているが、会計年度任用職員を含めた数字となっている。

3 その他

(1)今後の開催予定

第4回の開催日程については、令和5年1月12日(木)9:30からとしており、場所は今回と同じ市民会館21号会議室で行う予定としている。

基本構想の案については、庁内検討委員会を経て素案を決定する予定。決定後は、11月から12月にかけて、意見公募(パブリックコメント)のほか、市民説明会を開催する予定となっている。

4 閉会

以上